

# 三浦しをんさん、『広辞苑』編者に胸キュン 没後50年の日に出版される伝記を読んで

この8月17日で、『広辞苑』を編纂した新村出氏が亡くなって50年になります。これに合わせて、孫の新村恭さんが『広辞苑はなぜ生まれたか——新村出の生きた軌跡』（世界思想社）と題する初の伝記を刊行します。

この伝記によると、明治から昭和にかけて日本語学者として活躍した新村出氏は、その実績や学風、人柄を買われ、辞書の編纂を持ちかけられます。これが、あの有名な『広辞苑』の前身『辞苑』のはじまりです。1935年に刊行されました。

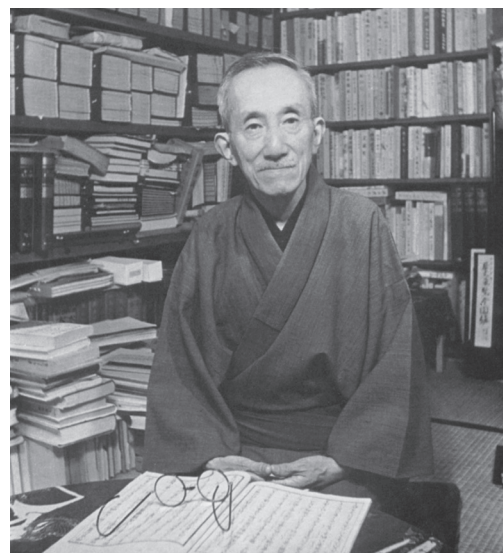
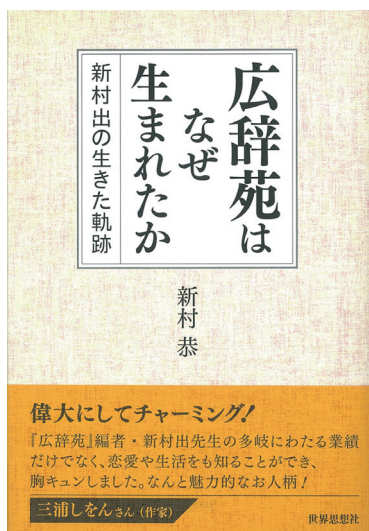
すぐに改訂する予定でしたが、理想に燃える次男新村猛氏の参画で編集作業は停滞、そのうちに戦争が始まり、在庫していた紙や活字銅版が爆撃で失われる事態に。戦後、旧版元の解体、借金の精算、岩波書店との交渉を経て、やっとできたのが『広辞苑』なのです。1955年でした。

『広辞苑』は出氏の「人生の結晶」と宣言する著者の新村恭さんは、岩波書店の元編集者で、出氏の孫。日本語に取り憑かれた学者としての特徴に留まらず、数千通の書簡や日記を渉猟して、その人間的な魅力を存分に描いています。ラブレターが証言する豊子夫人との恋愛や、77歳にしてある映画女優にはまった話など、楽しいエピソードも満載。

作家の三浦しをんさんは、これを読んで、「偉大にしてチャーミング！『広辞苑』編者・新村出先生の多岐にわたる業績だけでなく、恋愛や生活をも知ることができ、胸キュンしました。なんと魅力的なお人柄！」と本書を推薦しています。

この4月、出氏の未公開資料を所蔵する新村出記念財団「重山文庫」（京都市の旧邸宅）で、『広辞苑』の誕生にまつわる資料の展示スペースを新設し、公開を始めました。恭さんは財団の嘱託として勤務し、講師として解説する傍ら、この伝記も販売する予定です。

本体 2,300円（税別）  
2017年8月発行  
四六判／240頁  
ISBN978-4-7907-1703-4



書物のなかの新村出

## 目次

### I 新村出の生涯

萩の乱のなかで生を享ける——父は山口県令  
親元離れて漢学修業——小学校は卒業してない  
静岡は第一のふるさと  
文学へのめざめ、そして言語学の高みへ——高・東大時代  
荒川豊子との恋愛、結婚  
転機、欧州留学  
水に合った京都大学——言語学講座、図書館長、南蛮吉利支丹  
戦争のなかでの想念  
京都での暮し——晩年・最晩年  
新村出が京都にのこしたもの

### II 真説『広辞苑』物語

『辞苑』の刊行と改訂作業  
岩波書店から『広辞苑』刊行へ  
『広辞苑』刊行のあとに

### III 交友録

徳川慶喜の八女国子——初恋の人  
高峰秀子  
佐佐木信綱  
川田順  
そのほかの人びと

<http://sekaishissha.co.jp/>

株式会社 世界思想社 教学社 〒606-0031 京都市左京区岩倉南桑原町56

【営業部】TEL:075-721-6506 FAX:075-721-8707 【編集部】TEL:075-721-6503 FAX:075-712-1590

（本件に関するお問い合わせ先）世界思想社編集部 担当：東 TEL:075-721-6503 E-mail: azuma@ss-kg.jp